〔様式3〕

指導方法の課題分析と具体的な授業改善案 （国　語）

東京都北区立なでしこ小学校

学年	指導方法の課題分析	具体的な授業改善案	補充・発展指導計画
1年	・ひらがなを50音は、形や場所に気をつけて、丁寧に書けるように指導したが、いくつかの字の定着に課題が見られる児童がまだ見られる。指導方法をさらに工夫していく必要がある。 ・拗音や濁音の学習も行ったが、自分一人で書くことが難しい児童がいる。	・拗音や濁音、助詞の習得に向けて、朝学習や学習タイムなどを活用して繰り返し取り組めるようにする。観察カードや文を作る時にできていなければ個別に指導する。 ・宿題の音読などで、言葉や文に慣れさせたり、日記を書く習慣をつけ書くことにも慣れさせたりする。	・PU講師と連携を取りながら、個別に支援をすすめる。 ・児童の実態に合った本を読み聞かせしたり進めたりして、活字処理量スピードを高めていく。 ・書くことについて、様子や気持ちを伝えるための言葉を提示する等して、質を高めるための指導を行う。
2年	・文章を正しく音読したり、内容を読み取ったりする機会が不足している。 ・自分の考えを書く力を育む指導が、不足している。自信をもって、自分の思いや考えを表現する力を身に付けられるよう、個々の力に合わせた指導を充実させる必要がある。 ・大切なことを聞く力が不足している児童が多い。	・読書の時間を設け、内容を理解しながらじっくりと読むことができるようにする。 ・文章を視写したり、項目ごとに分けて書いたりすることで、正しい文章の構成に触れる機会を増やす。 ・メモのとり方を指導し、箇条書きで書くことを理解させる。	・おすすめの本の紹介の活動や、読み聞かせを取り入れ、読書習慣を付けていく。 ・国語科で自分の考えを書くことだけでなく、行事や生活科等、教科横断的に気付いたことや考えを書く経験を積み重ねられるようにする。 ・明日の予定や持ち物を口頭で伝え、それらをメモする機会を繰り返し設けるなど、聞き取る習慣を身に付けていく。
3年	・年間を通して、何についての話題や内容なのかを理解しつつ文章を読むことが乏しい。 ・基礎基本である漢字などについても、既習事項の定着が乏しい。	・NIEや読書などを通して、まずは文をたくさん読む。その際に、実際に読んですぐわかることやあらすじなどを確実に理解させるために、授業の導入での全体での確認をする。また授業開始5分は自分のスピードで自分の耳に聞こえる声で音読をさせる。	・全教科の学習活動を通して、既習の漢字を使い、正しい文型で文章を書くことの指導徹底を行う。また字を丁寧に書くことを通して、漢字などの確実な定着を図る。 ・グループで新聞を作るなどの活動を行い、考えを他者と交流しながらまとめたり、他者意識をもって文章を書いたりする機会を作る。
4年	・年間を通して、自分の考えを文章にまとめて書くという学習機会が少ない。 ・正答がない問いに対し、自分の考えをもつという学習機会が少ない。	・自分の考えを、口頭のみならず文章化して表現する機会を増やす。 ・問いを工夫し、自分の考えをもつ学習活動を実施する。	・新聞作りやパンフレット作りなどを多様な表現方法を使い、文章で自らの感想や考えを表現する機会を増やしていく。 ・グループ学習やまとめたことの発表など他者との交流を通して、自分の考えを再構築する機会をもたせる。
5年	・年間を通して、自分の考えを文章で書きまとめる学習が少なく、書き表す機会が乏しい。 ・物語をじっくりと読んだり、言葉や文章と向き合ったりする学習時間がそもそも少ない。	・文章から根拠を示し、自分の考えを表現する機会を教科を横断して増やしていく。 ・意味調べを行う時間を定期的に設ける。 ・表現することを事前に児童に伝え、相手意識をもって学習させる。	・様々なジャンルの本に触れさせ、語彙力を高めていく。グループで紹介したり、意見交換をしたりする活動を取り入れる。 ・新聞を活用した学習を行い、「意見文」として自分の考えを書き表す活動を取り入れる。他者との交流をさせ、考えを共有する時間を設ける。
6年	・年間を通して、自分の考えを文章で書きまとめる学習が少なく、書き表す機会が乏しい。 ・物語をじっくりと読み，心情や情景描写を考えたり、自分の意見をもったりする機会が少ない。	・自分の思いや考えを書く機会を増やしていく。 ・問いを工夫し、行間にある心情や情景描写を考えたり、自分の考えを表現したりする機会を増やしていく。	・読書の機会を増やし語彙力を高める。自分の考えを文章でまとめ、他者との考えをすりあわせたり認めたりする活動を取り入れる。 ・新聞を活用し、内容を読み取る力や自分の意見を表現する機会を増やしていく。

〔様式3〕

指導方法の課題分析と具体的な授業改善案 （社　会）

東京都北区立なでしこ小学校

学年	指導方法の課題分析	具体的な授業改善案	補充・発展指導計画
3年	・体験的な学習経験が乏しく、学習と日常生活とを結びつける学習が不足している。 ・児童の興味・関心を高めた上で、学習問題を作る必要がある。	・校外学習の機会を設け、学習と体験とを結びつけて、理解を深めていけるようにする。 ・写真や絵などの資料を参考にして意欲的に学習問題作りを行えるようにする。	・写真やグラフなどの視覚的資料を提示する。ノートに貼るなどして、個人でも繰り返し見られるようにして理解を深めていけるようにする。 ・教科書だけではなく、NIEでの新聞記事や日常生活の場面からも学習する機会を設定し、さらに理解を深めていけるようにする。
4年	・小学校生活の中でコロナ禍を経験しており、体験的な学習経験が乏しく、学習と日常生活とを結びつける学習が不足している。	・出前授業や社会科見学の機会を設け、学習と体験とを結びつけて学習理解を深められるようにする。	・社会科見学や出前授業など実際の活動や働く人々と関わる体験的授業を多く設けることでどの児童も自分たちの問題として課題をを捉え、自らの疑問や探求したいことについてさらに深めていけるようにする。
5年	・資料のみではなく、既習事項や経験、他教科で学んだことを関連付けないと解決できないような問題作りを行う必要がある。 ・児童の実態として、一回の単元学習のみでは身に付けきれない。	・授業開始時、既習事項を確認する時間を意図的に設ける。 ・課題設定時、ヒントを交えながら、既習事項を関連付けないと解決することができない発問をする。 ・eライブラリなど、デジタル教材を使って、復習を定期的に行う。	・単元終わりや復習として、積極的に取り組める方法で既習事項の振り返りを行う。 ・社会科の教科書のみの視点ではなく、社会情勢や他教科とも関連付けながら考えられるようにする。
6年	・児童の興味・関心を高めた上で、資料を読み取り、資料からどのようなことが言えるのかを考えていく学習を繰り返し行っていく必要がある。 ・学習事項を活用して、初見の資料を読み取る指導が不足している。	・習得した知識・理解を生かして資料を読み取り表現するなど、実際の問題解決の場面で役に立つという実感をもたせる。 ・資料を調べる活動の際に、見る視点、見方の指導を丁寧に行う。	・新聞記事の紹介など、児童が身の回りの生活との関わりを感じ、興味・関心や学習意欲を高められるようにする。 ・折に触れ、資料から分かることを一問一答のクイズ形式で、資料の見方を確かめる授業を行う。

〔様式3〕

指導方法の課題分析と具体的な授業改善案 （算　数）

東京都北区立なでしこ小学校

学年	指導方法の課題分析	具体的な授業改善案	補充・発展指導計画
1年	・生活経験の差も含めて、個人差が大きいが、その差に対応するのが難しかった。 ・具体的な操作を取り入れ指導を行ったが、理解が苦手な児童にとっては、半具体物→抽象化という手順が時間的に不十分だった。	・確かな理解ができるよう、具体物や半具体物を活用し、視覚的な教材を用いて、繰り返し操作させるようにする。加法や減法の考え方を、班具体物を使って自分で説明できるようにする。 ・加法や減法を繰り返し練習し、できるようになったという実感をもてるようにする。	・eラーニングや補充プリントを活用しながら、既習事項を振り返る時間を積極的に設ける。 ・問題解決、発表、検討という形の授業を取り入れていく。自分の考えをもって友達と交流できるようにする。 ・様々な文章題に取り組み、文章を読んで図示したうえで立式する指導を行う。
2年	・繰り上がりや繰り下がり等の基礎計算の定着に時間を要し、文章から立式したりその説明をしたりする時間が十分確保できていない。 ・課題について、児童一人一人が自己の考えをもてるだけの時間が不足している。 ・数名の理解が高まらない内に、次の項目へ進まざるを得ない状況になりがちである。	・1時間の学習の中で、「課題把握」「見通しもつ」「自力解決」「全体共有」「まとめ」といった授業の組み立てを定着化させる。 ・解法を説明させたり、友達の考えを聞いて自己の考えを深めさせたりする時間を意図的かつ確実に設定する。 ・適用問題は児童の理解度に合わせ、習熟度に合わせた解き方を確実に身に付けられるようにする。	・習熟度の上がらない児童には、個別の課題を提示したり、ポイントを絞った指導を行ったりする。文章の問いについては、図示する、具体物を用いるなど、補足やヒントを提示、見通しをもたせて取り組ませる。 ・ベーシックドリルに取り組む時間を定期的に取り、自己の定着度を理解し、課題を解決できるようにする。
3年	・言語理解に課題が見られる児童も複数名おり、問題の理解について丁寧に確認する必要がある。 ・授業時間内で適用問題に取り組む時間が十分でなく、児童の理解の定着が図れない。 ・文章題の読み取りや立式の指導が不十分である。	・図示や具体物の活用を取り入れながら、児童の理解を助ける。 ・適用問題については習熟度に合わせて、問題量や難易度を調整して取り組む。 ・図や言葉を活用して、視覚的に立式の根拠や計算の仕方を理解できるようにする。	・単元の指導を計画的に行い、授業時間内にベーシックドリル等も活用した総復習の時間を取れるようにする。 ・ICT等の思考ツールを活用し、学習問題の自力解決や考えの交流が行えるようにする。
4年	・個々の児童によって、課題にばらつきがあるため、個々の課題を明確に把握した上での指導が必要である。 ・例えば授業の冒頭に、基礎的な練習問題に取り組む時間をとり定期的に定着度を確認するなどする工夫が必要である。	・自身の考えを表現させるための思考時間を十分に確保する。 ・表現の仕方も、式と答え、図や言葉を用いた表現の仕方の事例を示す。自身の考えを説明させる機会を増やす。	・毎時間の授業冒頭などの時間を活用し、ベーシックドリルや計算問題に取り組ませることで基礎基本の確実な定着を図る。 ・単元終了時に、ドリルやプリントを活用し、既習事項の復習問題に取り組ませる。
5年	・授業時間内だけでは、基礎的な計算力を高める時間が少ない。 ・例えば、「わり算」の単元などでは、必ず「わり算」だと決まり切った問題しか提示していないため、応用問題では、問題文と数字を上手く結びつける指導が充分でない。	・時数や単元配列を考慮しながら、計算問題を意図的に復習できるようにする。また、宿題等も活用しながら復習できる機会を設けていく。 ・単元を横断した問題を教員が意図的に出題する。	・ベーシックドリルやeラーニングを活用しながら、復習できる機会を設ける。 ・単元終了時に、既習事項を確認できるプリントを準備し、児童に苦手な問題を選択させ、取り組ませるようにする。
6年	・基礎的な計算力、それを活用して問題解決する力など、個々に抱える課題にばらつきがあるため、個別の課題をより明確に把握した上での習熟度別指導が必要である。	・考えを説明する際に、式と答えだけでなく、図や言葉を活用して、視覚的に立式の根拠や計算の仕方を説明させる。 ・授業末の「まとめ」をしっかりと行い、本時のねらいを児童が理解しているかを確認する。	・単元終了時などに計算ドリルや練習プリント等を活用し、既習事項を確認する問題に取り組ませる。 ・ベーシックドリルに定期的に取り組ませ、補充プリントを与え、前学年の基礎基本の確実な定着を図る。

〔様式3〕

指導方法の課題分析と具体的な授業改善案 （理　科）

東京都北区立なでしこ小学校

学年	指導方法の課題分析	具体的な授業改善案	補充・発展指導計画
3年	・生活科と理科との相違点について確認させた上で、観察・実験に臨ませる。児童に科学的な見方の下地をつくるために繰り返し指導する。 ・科学的な思考の基礎を定着させるため、問題解決型の学習に慣れさせる必要がある。	・問題解決型の学習おける各段階での見方や考え方、記述の仕方について例を示す。児童の習熟に応じて、徐々に自主的に思考させたり、記述させたりしていく。 ・生活経験を基に問題を見い出させたり、予想させたりするなど、生活科での学習経験を活かすようにさせる。	・問題解決型の学習を丁寧に行う。理由や根拠を明らかにして予想させたり、実験・観察の方法を複数挙げさせたりする。 ・実感の伴う思考をさせられるよう、体験的な学習を行う。五感で感じたことを基に見通しをもって観察や実験を行えるようにする。
4年	・実験や観察の時間の確保。条件によっては、実験のできない項目もある。例えば、校庭にしみこむ雨水は、校庭が土ではないので体験できない。教科書の事例を生かして実験だけでなくVTRや写真などを効果的に使用して児童に実感をもたせた学習を行うことが必要。	・モデル実験などを取り入れ、実験環境を整える。 ・問題から結論にいたるまでの問題解決型の学習方法を軽重を付けながら効果的に行っていく。実験を行う科学的な経験を豊かにするとともに実験結果を根拠にして考察行うなど文章表現も丁寧に行う。	・時数の確保ができれば理科的な問題を解くという練習を行いたいが、現在は、実験を丁寧に行い、結果から考察を自分で行う自力解決を重点として学習させる。
5年	・課題を捉え、それについての予想や考察を書くことに課題がある。生活経験から、考察するために、様々な体験に触れさせることが必要である。 ・気候や環境により、実験や観察が難しい単元がある。教科書の事例を生かして実験だけでなくVTRや写真などを効果的に使用して児童に実感をもたせた学習を行うことが必要。	・既習事項を再確認し、生活経験から根拠をはっきりさせて予想を立てさせる。 ・学年で協力し、可能な範囲で体験的な学習ができるよう計画的に指導していく。	・学習の流れが視覚的に分かるような板書、掲示を活用した指導を取り入れ、思考力を高める。 ・新聞や雑誌等を活用し、理科の学習に関連する事柄を意図的に選び、学校生活の中で触れる機会を多くする。 ・単元後、実験器具の操作技能テストやデジタル教材を活用した既習事項の確認を行う。
6年	・実験等が終われば「分かったつもり」になってしまい、知識・技能の定着させる復習確認が不足している。 ・実験用具の使い方、名称などの正しい方法への指導が繰り返し必要である。	・事象のつながりや条件制御の意味など、理解しやすいよう板書を工夫する。それを参考に図式化してまとめさせたり、分かったことをペアやグループで確認し合う時間を作る。 ・朝学習や活動間の少しの時間でも効果的に活用し、クリップ動画の視聴やきたコンのドリル問題に取り組ませる。	・授業で使ったキーワードをつなげ視覚的にも思考の流れが分かる掲示にする。 ・理科支援員と連携し、顕微鏡などの実験器具を操作する技能テストを定期的に行う。 ・NIEの活動で、新聞やニュースの理科的内容を取り上げ、学習とつなげていく。

〔様式3〕

指導方法の課題分析と具体的な授業改善案 （外国語）

学年	指導方法の課題分析	具体的な授業改善案	補充・発展指導計画
5年	・学習に意欲的に取り組む児童が多く、発音を意識しながら取り組んでいる。 ・ALTと打ち合わせする時間が少ないために計画的に単元を進めることが難しい。 ・外国語教材が少ないため、より多くの外国語に触れる機会が乏しくなってしまっている。（カードなど）	・事前準備やデジタル教材を活用して、より多くの外国語に触れられる機会を増やしていく。 ・計画的にALTと打ち合わせをし、コミュニケーション活動も増やしていく。	・ALTの発音やリズムに慣れ、簡単な指示や質問を聞いて理解する活動を増やす。 ・文章の意味や文脈を考えながら読み進め、把握した内容に答える活動を増やす。
6年	・これまでの積み重ねがあるので、基礎は比較的身に付いている。 ・英語を得意とする児童と苦手とする児童では、自分のことを英語で表現する技能の差が大きく、苦手とする児童への手立てが必要である。	・ALTやHLT、デジタル教材の聞き取りを毎回行い、英文の内容を理解できるようにする。 ・Unitごとに身に付けさせたいセンテンスを何度も発話する機会を与え、自信をもってやり取りできるようにする。	・モジュールの時間に発話するセンテンスを4線に書き写すようにし、発話に自信をもたせつつ、正確に書く力を付ける。 ・卒業までにアルファベットを正確に聞き取り、書くことができるように確認テストを行う。